

# 旭地区まちづくり計画

## 第2期5か年計画〔2016~2020〕



矢作川に架かる やな場でのひととき



旭地域会議



## 誰もが自慢できる 誰もが誇れる旭を目指して

旭地区では、人口減少、高齢化といった状況を長期的に捉え、平成23年度に「旭地区まちづくり計画」を策定し、これを今後10年間のまちづくりを進めるための『道しるべ』としながら、各種の取組を進めてまいりました。

この計画には、具体的な取組内容をまとめた第1期・第2期の各5か年の計画があります。とりわけ本年度は計画期間の中間年度にあたり、これまでの取組の総括と次年度から始まる新たな計画をまとめる重要な年度でもありました。

私たち旭地域会議では、昨年度と本年度の2か年をかけて、第1期5か年計画の総括と後期となる第2期5か年計画の策定作業を進めてまいりました。

第2期5か年計画の策定にあたっては、これまでの取組結果を踏まえて、必要な取組を強化したほか、旭地区内で活動する団体の代表者で構成された「持続可能なまちづくり協議会」を設置し、旭地域会議と連携をとりながら、より視野の広い施策を計画内容に反映させました。

そして、目標実現に向けて取り組むべき分野や具体的な内容を設定するとともに、わくわく事業や地域予算提案事業などの既存の仕組みのほか、各種の支援制度などを活用してまちづくりが進められるよう、実践するための手段をまとめました。

昨年度、旭地域会議が実施したアンケート結果では、5年前と比較してまちの変化を実感している人が増えていました。更には、住民の暮らし満足意識も非常に高い結果であったことから、旭地区のまちづくりは着実に前進していると思います。

しかし、まだまだ課題も多くあります。今後につきましても、私たち地域住民が力を合わせて、こうした課題を一步一步、着実に解消することで、住民の皆様のくらし満足度も更に高まっていくことを期待します。

最後にあたり、「誰もが自慢でき誇れる旭」にしていくためにも旭地域会議委員一同、頑張る所存ですので、地域の皆様には今後とも更なるご支援、ご協力のお願いを申し上げ、あいさつと致します。

平成28年3月

旭地域会議会長 堀 俊和

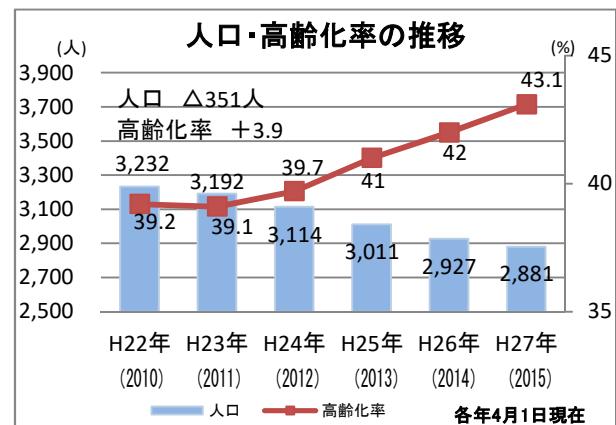
# 旭地区まちづくり計画 [2011~2020] の概要

## 過疎化に負けないまちへ！

### ～まちづくり計画策定の経緯～

旭地区では、人口の減少、高齢者の増加、農地の荒廃といった過疎化が進んでいる状況の中で、長期的な展望を踏まえつつ、今後のまちづくりを効果的に進めるため、平成23年度に「旭地区まちづくり計画」を策定しました。

現在、旭地区では、この計画を「道しるべ」としながら10年間のまちづくりを推進しております。

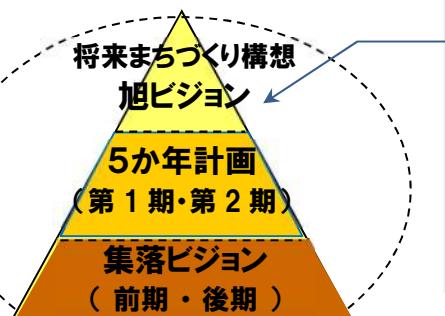


## 住民の皆さんと共有する まちづくりの「道しるべ」 ～まちづくり計画の構成～

この計画は、まちづくりの基本理念や目標将来像を示した10年間の計画「将来まちづくり構想旭ビジョン」とその実現に向けて旭地区全体または、各町内会(組)組織として取り組む具体的な内容をまとめた前期・後期の5年ごとの計画「5か年計画」、「集落ビジョン」で構成されております。



### 旭地区まちづくり計画



【まちづくり基本理念（全ての住民で共有するまちづくりの根本的な考え方）】  
美しい山河と地域の絆 結いの心が通い合う  
水の郷 旭

【目標将来像（目標とする10年後の旭地区の姿）】

- ①若者が住み続けられる魅力あるまち 旭
- ②地域が助け合い安心して暮らせるまち 旭
- ③誰もが訪れたくなる美しい山里 旭

■将来まちづくり構想 旭ビジョン  
まちづくりの考え方と目標とするまちの姿をまとめた10年間の計画

■5か年計画  
具体的な取組内容をまとめた5年ごとの計画

■集落ビジョン  
集落ごとに取り組む内容をまとめた計画

### 計画の期間

2011 (H23年度)

2016 (H28年度)

2020 (H32年度)



# 第1期5か年計画[2011～2015]の取組成果と課題

## 旭地域会議による第1期の振り返り

### ～第1期5か年計画の総括～

これまでの取組の実績や地域の状況などを踏まえると、旭地区のまちづくりは、着実に前進しているといえます。

これは、旭地区まちづくり計画を「道しるべ」としながら、地域と行政が共働してまちづくりを進めていることで、まちの環境が少しづつ良くなっていること。更には、地域の人々の斬新かつ地道な活動が市内外から高く評価され、それが活動への励みや地元への愛着意識の増加につながっているなど、好循環が生まれつつあると考えます。

■『旭地区まちづくり計画 第1期5か年計画[2011～2015]の総括』  
(44～47ページ) 参照

回答内容	H22年実施 住み良さ意識調査	H26年実施 第20回市民意識調査	5年間の 変化
住み良い	18.4%	28.4%	+15.1
どちらかといえば住み良い	28.2%	33.3%	
どちらともいえない	32.9%	25.5%	-7.4
どちらかといえば住みにくい	13.0%	6.9%	-10.0
住みにくい	5.9%	2.0%	
無回答	2.5%	3.9%	+1.4



## 今後の人口の見通し

### ～人口動態・将来予測人口～



旭地区では、この5年間で約350人の人口が減少しました。このままの状態で推移した場合の20年後の人口は、約1,600人で、その半数が65歳以上になることが予測され、今後のまちづくりへの影響が懸念されます。

しかし、U・Iターン者の増加促進や転出抑制の取組を更に進めることで、急速な人口減少や高齢化の進行を抑えることができます。

#### ■これまでの人口の動き(人口動態)

単位:人

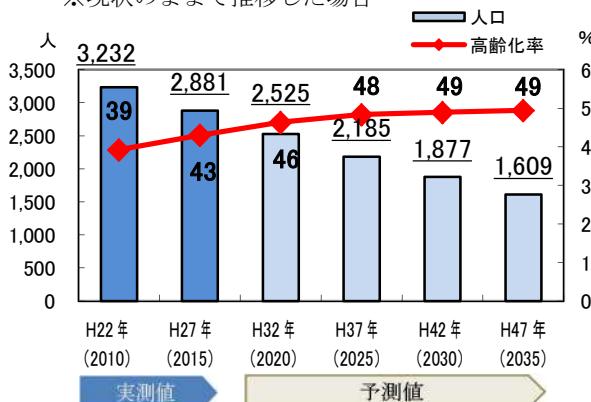
年度 項目	H22年 (2010)	H23年 (2011)	H24年 (2012)	H25年 (2013)	H26年 (2014)
人口増減数	▲40	▲78	▲103	▲84	▲46
内訳	自然増減 <sup>※1</sup>	▲43	▲36	▲51	▲42
	社会増減 <sup>※2</sup>	3	▲42	▲52	▲42

※1 生まれた人の数と亡くなった人の数の差

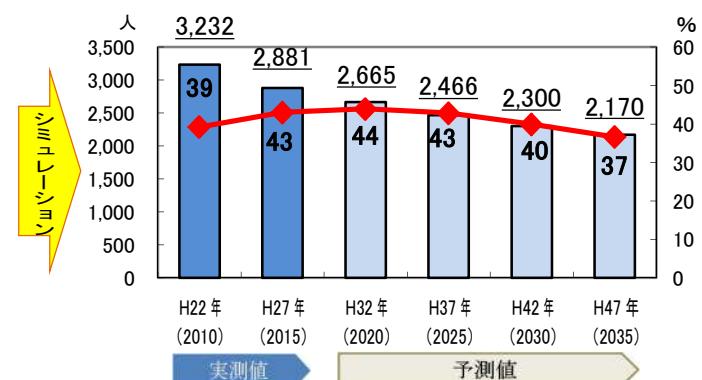
※2 転入した人の数と転出した人の数(市内転居含む)の差

#### ■今後の人口予測(各年4月1日)

※現状のままで推移した場合



※4歳以下の子どもがいる30歳代夫婦5世帯と子どもがない20歳代の夫婦5世帯が毎年定住した場合



## 計画期間の前半を終えて見えてきた課題

### ～ 第1期5か年計画の実践結果の検証～

前期となる第1期5か年[2011～2015](平成23～27年度)の取組を進めた結果、個別の課題や問題はあるものの総体的には、まちづくりの効果が現れています。しかし、その一方で、人口減少や高齢化から、まちづくりの担い手不足が進み、地域の支え合い活動や地域核機能の低下が危惧されています。

今後は現存する地域資源(人・もの・こと)を磨き上げ、生かし合う工夫を凝らしながら、少ない人材でも実践できる効果的なまちづくりを進める必要があります。



#### 【今後に向けた取組課題】

- ◎若者世代の増加促進(多様な担い手の育成)
- ◎地域資源(人・もの・こと)の磨き上げの工夫
- ◎持続可能な地域力の保持
- ◎地域核(生活に必要なサービスが揃った地区の核)  
機能の維持



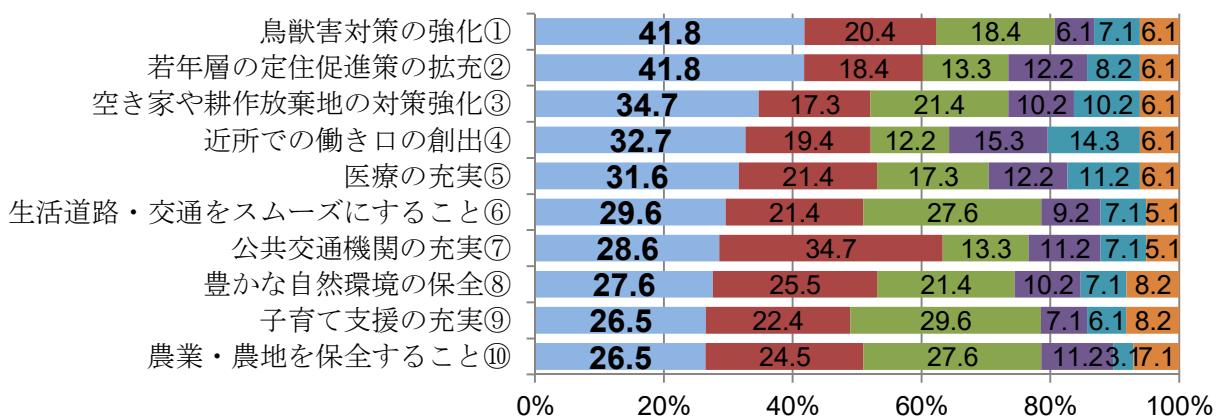
## 住民が捉える現在の地域課題

### ～住民アンケート結果(H26年度地域自治システムに関するアンケート結果)～



全21項目の地域課題のうち「思う」と答えた割合が多い項目を重点課題として捉え、その対策を検討する必要があります。

#### 地域の課題や問題点について(「思う」の割合の多い順)【上位10項目を掲載】



※「思う」の割合の多い順

■思う ■どちらかといえば思う ■どちらともいえない  
■どちらかといえば思わない ■思わない ■回答なし

# 第2期5か年計画[2016～2020]の考え方

## 今後の旭地区的まちづくり

### ～計画内容の基本的な考え方～

5か年計画は、地域と行政（支所）の役割分担の中で旭地区として『実施すべきこと・できること』をまとめた計画です。

第2期5か年計画[2016～2020]（平成28～32年度）では、前期となる第1期5か年計画[2011～2015]（平成23～27年度）の取組内容を大幅に変更するのではなく、これまでの取組効果や地域の状況を踏まえた上で、取組内容の強化や一部見直しを行い継承しました。



今後のまちづくりは、一石二鳥以上の効果が生み出されるような取組を進めます。



### 第1期5か年計画(2011～2015)

#### 総括

#### ～今後に向けての課題～

- ◆若者世代の増加促進（多様な担い手の育成）
- ◆持続可能な地域力の保持
- ◆地域資源（人・もの・こと）の磨き上げの工夫
- ◆地域核（生活に必要なサービスが揃った地区的核）機能の維持

対応策  
反映

新たな  
地域課題

### 第2期5か年計画(2016～2020)

#### 策定

## 計画内容を強化したポイント

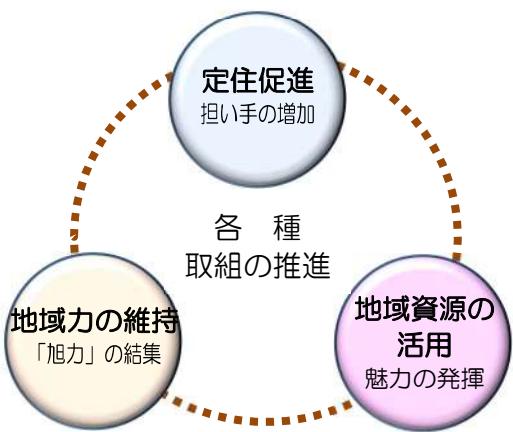
### ～3つの取組の柱～

第2期5か年計画[2016～2020]（平成28～32年度）では、『担い手の増加』、『旭力（地域力）の結集』、『魅力（地域資源）の発揮』の3つの視点を重要視し、関連する分野の取組を強化しました。

この3つの分野の取組を計画の柱として、地域の担い手を増やしつつ地域の力を結集し、既にある『人、もの、こと』を生かしてまちづくりを進めていきます。



### 今後のまちづくりの展開イメージ



## 結いの心が通い合うまちづくりの合言葉

### ～『WE LOVE 旭』の推進～

みんなで、  
「WE LOVE 旭」を推進  
しましょう！



「地元を良くしたい」という思いは、まちづくりの原動力です。今後の旭地区のまちづくりを加速させるためには、地域の全ての人々が共通して「地元を良くしたい」という思いを持ち、それぞれができることを無理なく実践することが大切です。

第2期5か年計画〔2016～2020〕(平成28～32年度)の実践に向けては、「WE LOVE 旭」を合言葉に掲げ、誰もが自慢できる誇れる旭を築きます。

## 目標実現に向けた取組の実践

### ～ 共働によるまちづくりの推進～

第2期5か年計画〔2016～2020〕(平成28～32年度)では、目標将来像の実現に向けて、8つの取組分野と17の取組項目、35の取組内容を設定しました。

各種の取組の実践に向けては、地域（住民、集落、事業所、各種活動団体等）と支所との役割分担のもとで、わくわく事業や地域予算提案事業のほか、既存の仕組みや各種支援制度を活用するなどして、それぞれが知恵と工夫を凝らしながら取組を進めます。

また、旭地域会議では、この計画をもとに新たな地域予算提案事業を立案するなど、課題解決に向けた効果的な事業や仕組みづくりを検討していきます。



目標 将来像	取組分野	取組 項目数	取組数
1	定住・生活	4	5
	道路・交通	2	4
2	地域力	1	3
	防災・防犯	2	3
	健康・福祉	2	4
	学習環境	2	4
3	産業・観光	2	6
	農地・森林	2	6



## まちづくりの進捗の確認

### ～ 各種活動団体との連携強化～



第2期5か年計画〔2016～2020〕(平成28～32年度)の策定に向けては、子育てや健康づくりのほか、観光・産業など、各分野で活動する団体の代表者で構成する『持続可能なまちづくり協議会(旭地域会議専門部会)』を設置し、意見交換を進めてきました。

今後も引き続き、年に1度の意見交換を実施するなどして、それぞれの活動状況を確認し合いながら、まちづくりを推進します。

## 目標将来像1 若者が住み続けられる魅力あるまち 旭

取組分野

取組項目／具体的な取組内容

実施主体

地域 行政

定住  
・  
生活

## 定住促進と住居の確保

P11～12

①空き家情報バンクの活用と若年者の定住支援

 ②定住したくなる・子育てしたくなるまちの雰囲気づくり **新規** 仕事探しへの支援 **新規**

P13

①仕事情報の集約と提供 **新規** 旭ファンづくりの推進 **追加**

P14

①既存の都市農山村交流事業の拡充

## 生活環境の整備

P15～16

①日用品がそろう商店・飲食店の魅力アップ

 道路  
・  
交通

## 幹線道路・生活道路の整備

P17～18

①県道・市道の整備促進による道路改良率の向上

②道路危険箇所の改良と通行支障木の伐採

## バスの利便性向上

P19～20

①利用者ニーズに合ったバス運行の見直し

 ②地域バスの利用促進 **新規** 

## 目標将来像2 地域が助け合い安心して暮らせるまち 旭

地域力

## 住民相互（結い）と連帯感の強化

P23～24

①集落ビジョンによる地域将来像の共有と推進

②子どもやお年寄りを地域ぐるみで支える仕組みづくり

③わくわく事業などを活用した地域力の向上と担い手の育成

 防災  
・  
防犯

## 防災体制の充実

P25～26

①地域の危険箇所、避難経路の確認など防災・減災意識の高揚

②減災に向けた地域の支援体制づくり

## 防犯意識の高揚

P27

①子ども・お年寄りの見守りパトロールなど自主防犯活動の強化



健康  
・  
福祉

## 健康増進の推進と福祉の向上

P28

- |                                 |   |   |
|---------------------------------|---|---|
| ①健康寿命の延伸活動と地域保健福祉体制の充実          | ◎ | △ |
| ②お年寄りへの声掛けや見守り活動など自助・共助による福祉の推進 | ◎ | ○ |

## 子育て環境の充実

P29～30

- |                               |   |   |
|-------------------------------|---|---|
| ①子どもの居場所づくりと子育て支援の拡充          | ◎ | ○ |
| ②母親同士の仲間づくり <small>新規</small> | ◎ | △ |

学習  
環境

## 生涯学習の充実

P31

- |                         |   |   |
|-------------------------|---|---|
| ①趣味や娯楽の活動を通した人々が集う場所づくり | ◎ | △ |
| ②郷土芸能、郷土料理など伝統文化の継承     | ◎ | △ |

## 子どもたちの教育環境の充実

P32

- |                           |   |   |
|---------------------------|---|---|
| ①地域と学校が一体となった人づくり、教育の場づくり | ○ | ◎ |
| ②人材バンクを活用した地域学習の活性化       | ○ | ◎ |

## 目標将来像3 誰もが訪れたくなる美しい山里 旭

産業  
・  
観光

## 地域資源を活用した産業の育成

P35～36

- |                                       |   |   |
|---------------------------------------|---|---|
| ①地元の素材や伝統的な食文化を活用した特産品開発と流通促進         | ◎ | △ |
| ②チャレンジショップによる産業の活性化 <small>新規</small> | ◎ | △ |
| ③優れた人材の知識共有による後継者育成 <small>新規</small> | ◎ | △ |

## 観光拠点の整備と情報発信

P37～38

- |                                |   |   |
|--------------------------------|---|---|
| ①あさひ観光案内所を拠点とした観光関連情報の集約と情報発信  | ◎ | △ |
| ②里山景観や河川、温泉、農林業体験を効果的に活用した観光振興 | ◎ | △ |
| ③旭高原元気村を活用した地域経済の活性化           | ◎ | ○ |

農地  
・  
森林

## 営農体制の整備と獣害対策

P39～40

- |                              |   |   |
|------------------------------|---|---|
| ①集落営農の取組と担い手の育成による営農基盤の強化    | ◎ | △ |
| ②農地バンク制度など遊休農地の利活用           | ◎ | △ |
| ③鳥獣の防除、捕獲、農地復旧が一体となった獣害対策の拡充 | ◎ | △ |

## 森林再生と森林資源の活用

P41～42

- |   |   |   |
|---|---|---|
| ①森林の団地化による間伐の促進と森林資源の有効活用               | ◎ | △ |
| ②森林保全に取り組む団体や企業との連携強化 <small>新規</small> | ◎ | △ |
| ③林育（林の中で木にふれあい学ぶ）の推進 <small>新規</small>  | ◎ | △ |

目標将来像 1

## 若者が住み続けられる魅力あるまち 旭



暮らしの参観日（空き家見学会）の様子【敷島自治区】

【この目標の取組分野】



定住・生活分野  
道路・交通分野

／定住環境や生活環境に関する分野の取組を進めます。  
／道路環境や公共交通環境に関する分野の取組を進めます。

### « 目指す まちの姿 »

- ◎若者が旭に住み、より住みやすくするための様々な事にチャレンジができるまち
- ◎豊田市街や名古屋市への通勤・通学も可能であるほか、市役所旭支所周辺やコミュニティ活動の中心となる各会館周辺へ容易に行き来できる交通環境があるまち
- ◎暮らしに必要な物やサービスが揃う商店や公共施設（機能）が充実しており、総じて、子どもからお年寄りまでの全ての世代が地域に愛着と誇りを持って快適に暮らせるまち



### « 地域の取組紹介 »

#### 【事例①】

##### 自治区による空き家見学会の開催

敷島自治区では、移住希望者との交流を通してお互いを知り、より良い関係性の中で移住していただけるよう、地元主催による空き家見学会を開催しています。



暮らしの参観日（空き家見学会）の様子

#### 【事例②】

##### あさひ若者会による まちの雰囲気づくり

あさひ若者会では、地域情報誌『シットルカン』の発行や同窓会イベントの開催など、若者世代による活気あるまちづくりを進めています。

こうした活動が、Uターンしたくなるようなまちの雰囲気づくりに繋がっています。



同窓会イベントの様子

#### 【事例③】

##### 地域バスの乗車特典

旭地域バスにのろまい協議会（旭商工会）では、地域バス乗車証明書を10枚貯めると、商工会商品券500円分とエコポイント50P分がもらえる乗車特典を2015年（平成27年）9月から実施しました。



# 定住促進と住居の確保

[取組の考え方]

ターゲット (Uターン・Iターン) を区分した取組の推進と定住促進に向けたまちの雰囲気づくりの取組を進めます。

<現状と課題>

- ・ Uターンと Iターンでは、取組の視点が異なっている。
- ・ 空き家は多いが、所有者は空き家の提供に消極的である。
- ・ 土砂災害防止法の指定により住める場所が限られている。
- ・ 定住を支援する人材が不足している。
- ・ あさひ若者会の発足により、若者世代による活気あるまちの雰囲気が高まりつつある。
- ・ 生活する中で、中高校生の送迎の負担や子育てと仕事の両立を不安視する人も多い。



空き家見学会の様子

具体的な取組 ①

## 空き家情報バンクの活用と若年者の定住支援

- ／U・Iターン者を支援する住環境の整備や制度の拡充を進めます。
- ／定住応援住宅『エビネの里 (市営住宅)』からの地区内定住の仕組みづくりを進めます。
- ／安心安全な宅地の確保に向け、優良農地の維持を進める一方で、耕作放棄地となっている農振農用地指定の解除に向けた検討を計画的に進めます。

役割分担と主な実施主体

地域	地域の受入体制の充実 【自治区・町内会、定住連絡会など】
行政	各種制度の運用・見直し

役割区分：◎主体、○連携、△協力・サポート

取組手法や事業など

- ・ 空き家情報バンク制度
- ・ 2戸2戸作戦 (小規模宅地分譲事業)
- ・ エビネの里住宅の効果検証
- ・ 住宅取得費補助金の周知
- ・ 農振農用地の計画的な解除に向けた検討
- ・ 定住促進事業 (地域予算提案事業) など

【定住促進事業 (地域予算提案事業) の実施内容】

暮らしの参観日 (空き家見学会) 開催支援、定住促進に関する研修会の開催 (人材育成)、空き家提供啓発用ポスターの作製・配布、空き家交渉・モデル事例集の作成 など

## 目標将来像1 若者が住み続けられる魅力あるまち 旭

### ＜目指す状態＞

- ◎空き家や住宅適地の提供が増えるとともに、旭地区に移住するU・Iターン者も増加している。
- ◎移住者と地元住民とのコミュニケーションが図られ、地域の活力になっている。

#### 【空き家情報バンク成約件数】

現 状 5件／年間 (平成22～26年度の平均)  
⇒ 平成32年度 10件／年間

#### 【社会動態】

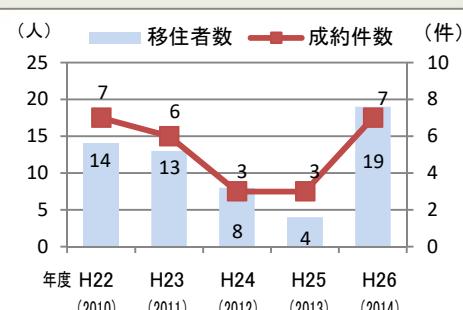
現 状 △27.2人／年 (平成22～26年度の平均)  
⇒ 平成32年度 △10人／年間

#### 【参考データ】

##### 空き家情報バンク制度の運用実績

成約件数 延べ26件

移住者数 延べ58人



### 具体的な取組 ②

## 【新規】定住したくなる・子育てしたくなるまちの雰囲気づくり

- ／若者による活気あるまちの雰囲気づくりを進め、若者世代のUターンや親密別居者の増加を図ります。
- ／定住をコーディネートする人材の育成やその活動を支援し、住民一人ひとりが、U・Iターン者をウェルカムで受け入れられるような雰囲気のあるまちづくりを進めます。
- ／子育てしやすい環境づくり、子育てしたくなる雰囲気のあるまちづくりを進めます。

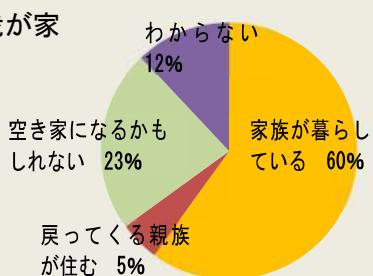
#### 【参考】

##### 敷島自治区「私と家族の将来像」アンケート結果

(出典:しきしま ときめきプラン2015)

敷島自治区が2014年(H26年度)に実施した調査結果では、自治区内の23%の世帯が「空き家になるかもしれない」と答えています。これを参考に旭地区全体の世帯数で算出した場合、10年後には、約230世帯が空き家になる可能性があります。

#### 10年後の我が家



### 役割分担と主な実施主体

地域	各種活動団体による積極的な活動の実施【あさひ若者会、定住連絡会、自治区定住部会、子育て支援グループなど】
行政	活動支援(周知・PR等)

役割区分: ①主体、②連携、△協力・サポート

### 取組手法や事業など

- ・(再掲) 定住促進事業(地域予算提案事業)
- ・旭地区Uターン者&親密別居者増加事業(地域予算提案事業)
- ・地域主体の定住促進活動の見せる化
- ・子育て支援グループとの連携
- ・小中高の通学負担軽減に向けた取組の検討 など

分野  
定住・生活

## 仕事探しへの支援

[取組の考え方]

地域に埋もれた小仕事※1情報が集約され提供することで、定住に対する職への不安解消を図ります。

### ＜現状と課題＞

- ・U・Iターン者が、小仕事※1を探している場面がある。
- ・人づてでしか入手できない大小様々な旭地区内の仕事の求人情報がある。

### ＜目指す状態＞

◎大小様々な仕事情報が定期的に集約・発信され、必要とする人に活用されている。

- ・**仕組の構築・運用開始** (平成28年度~)
- ・**仕組の定着化** (平成32年度~)



写真はイメージです

### 具体的な取組

### 役割分担と主な実施主体

#### 【新規】仕事情報の集約と提供

／大小様々な地元の仕事情報が集約され、希望者に提供できる仕組みを構築し、U・Iターン者の定住促進につなげます。

地域	◎ 小仕事バンク制度※2の管理・運営、情報の集約・発信【旭商工会など】
行政	○ 小仕事バンク制度の構築、運用支援(周知・PR等)

役割区分: ◎主体、○連携、△協力・サポート

### 取組手法や事業など

- ・(附) 定住促進事業(地域予算提案事業) など
- 〔小仕事バンク制度※2の構築と運営、小仕事情報の集約・情報発信〕

小仕事バンク制度では、人づてでしか知り得ない旭の求人情報を集約し、U・Iターン者や子育てを終えた女性などの希望者に情報提供できる仕組みを構築します。



写真はイメージです

※1 小仕事：短期のパートやアルバイトのほか、季節的または短期間の仕事

※2 小仕事バンク制度：地域の仕事情報を集約し希望者に情報提供する仕組みで、旭地区独自の制度

分野  
定住・生活

## 旭ファンづくりの推進

[取組の考え方]

各所で取り組まれている既存の都市と農山村の交流事業と連携して進めます。

### ＜現状と課題＞

- ・都市と農山村の交流は、既存の自主グループによる積極的な交流活動が進められている。
- ・交流を通じて、旭地区を知るきっかけづくりにつながっている。

### ＜目指す状態＞

◎旭のありのままの生活が体験・体感でき、田舎暮らしの魅力のPRにつながる交流事業が各地域で行われている。

#### 【農林業体験事業を実施する まちづくり認定登録団体数※】

現状 0 団体 (平成 26 年度) ⇒ 平成 32 年度 10 団体以上

#### 【認定された地域と企業・大学との連携事業数※】

現状 0 件 (平成 26 年度) ⇒ 平成 32 年度 10 件以上

※ (仮称) まちづくり活動団体認定制度の実施を前提とした指標



稲刈り体験をする都市部の参加者

### 具体的な取組

#### 既存の都市農山村交流事業の拡充

／都市部住民との交流を進め、農山村の魅力を発信するとともに「交流」から「定住」へのきっかけづくりを進めます。

### 役割分担と主な実施主体

地域	交流活動の実施 【自治区・町内会、各種活動団体など】
◎	
行政	団体や事業の認定、活動支援 (周知・PR 等)

役割区分：◎主体、○連携、△協力・サポート

### 取組手法や事業など



・お試し居住の館 板取の家の活用

・わくわく事業の活用

・旭あれこれガイドブックの配布・活用

・セカンドスクール事業

・おいでん・さんそんセンターの活用

・農林業体験事業実施団体との連携 など

〔まちづくり活動団体の認定、活動 PR や助言などの側面支援〕



※ (仮称) まちづくり活動団体認定制度：活動団体の活力が生かされたまちづくりを推進するため、旭地域会議が地域に貢献している優れた活動を行う団体を認定する旭地区独自の制度として、現在 (2015 年)、検討を進めている仕組み

### 生活環境の整備

[取組の考え方] 既存の商店の魅力アップと併せて、旭の人が旭で消費する機運(WE LOVE 旭)を醸成し、地域ぐるみで地元商店を盛り上げる仕組みづくりを検討します。

#### 〈現状と課題〉

- ・モリ券<sup>※1</sup>の普及により、多少ではあるが地元経済が循環している。
- ・地元の人でも、どこの店が何を取り扱っているのか分からず状況があり、商店に入りづらい。
- ・既存のコッキーカード<sup>※2</sup>は、貯まったポイントが分かりづらい。
- ・地元の人が地元の商店を利用していない状況が見受けられる。



観光客が訪れる小渡の街並み

#### 〈目指す状態〉

◎モリ券<sup>※1</sup>やコッキーカード<sup>※2</sup>が使われ、地域内経済の循環により、日常生活に必要な業種やサービスが維持されている。

【モリ券<sup>※1</sup>取扱店数】 現状 35店(平成26年度) ⇒ 平成32年度 40店以上



小渡商店街では、役所や通院帰りの高齢者が買い物をしている姿をよく目にします。生活に必要な物やサービスが揃った地域の核として、地域のみんなで支え、その機能を維持ていきましょう。



※1 モリ券：旭木の駅プロジェクト実行委員会が発行する地域通貨で、1モリ券(1,000円)、半モリ券(500円)の2種類があり、旭地区内の登録店舗で使用できる仕組み



具体的な取組

日用品がそろう商店・飲食店の魅力アップ

- ／地域核（小渡）の商店・サービス機能の維持・拡充を図ります。
- ／消費者と商業者のネットワークを構築し、相互に連携して地元商店の魅力アップに向けた取り組みを模索します。
- ／モリ券<sup>※1</sup>やコッキーカード<sup>※2</sup>を活用した地域内経済の循環と地域ぐるみで応援する仕組みづくりを進めます。

役割分担と主な実施主体

地域 ◎	モリ券 <sup>※1</sup> ・コッキーカード <sup>※2</sup> の運用【旭商工会・旭木の駅プロジェクト実行委員会など】
行政 △	運用支援（周知・PR等）

役割区分：◎主体、○連携、△協力・サポート



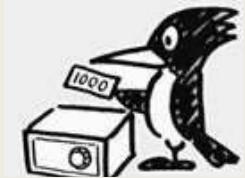
取組手法や事業など

- ・地域バス乗車特典の実施/旭地域バスにのろまい協議会（旭商工会）
- ・地域通貨（モリ券<sup>※1</sup>）の運用/旭木の駅プロジェクト実行委員会
- ・コッキーカード<sup>※2</sup>の運用/旭商工会
- ・消費者と商業者との懇談会の開催や消費者アンケートの実施に向けた検討
- ・チャレンジショップ的な事業の検討
  - 〔起業に向けた体験型のお店の開業、学生の一日店舗の開設など〕
- ・エコポイント、コッキーカード<sup>※2</sup>の活用に向けた検討
- ・（仮称）会員制旭ファンクラブの運用に向けた検討 など
  - 〔旭商工会や旭観光協会、他団体との連携による協力店でのポイント発行の検討／旭観光協会〕

【参考】モリ券（地域通貨）効果



旭木の駅プロジェクト実行委員会で発行されたモリ券<sup>※1</sup>（地域通貨）により、旭地区内の商店で年間約200～300万円の消費がされています。



※2 コッキーカード：登録店舗を利用した際にポイントが付与される旭地区独自の仕組み

分野  
道路・交通

### 幹線道路・生活道路の整備

[取組の考え方]

工事要望・陳情など既存の仕組みや各種支援制度を活用して道路環境を維持します。

#### ＜現状と課題＞



道路の通行支障木

- ・小原地区への接続道路の状況が悪く観光振興の面でも改善したい。
- ・小渡周辺へのアクセスは、道路事情から足が遠のいている。

#### ＜目指す状態＞

- ◎関係機関への積極的な働きかけにより、幹線道路の整備が進み、地域核や隣接地区へのアクセスがしやすくなっている。
- ◎地域による道路維持活動が盛んに行われ、通行の支障となる草木や危険箇所の解消により安全な道路環境が維持されている。

#### 具体的な取組 ①

### 県道・市道の整備促進による道路改良率の向上

／地域核へのアクセス道路や隣接地区との接続道路などの幹線道路を整備して、地域間交流や観光交流の促進につなげます。

#### 役割分担と主な実施主体

地域	地域ニーズの集約、工事の要望 【自治区・期成同盟会】
行政	道路整備の実施

役割区分：◎主体、○連携、△協力・サポート

#### 取組手法や事業など

- ・県道：期成同盟会による陳情
- ・市道：工事要望の提出 など



## 目標将来像1 若者が住み続けられる魅力あるまち 旭

### 具体的な取組 ②

#### 道路危険箇所の改良と通行支障木の伐採

／生活道路の危険箇所や障害樹木を解消して、災害にも強い安全・安心な道路環境をつくります。

### 役割分担と主な実施主体

地域	地域ニーズの集約・工事(伐採)の要望【自治区・町内会】
行政	修繕工事や伐採の実施

役割区分：①主体、○連携、△協力・サポート



### 取組手法や事業など



・通行支障木の伐採支援事業（地域予算提案事業）など  
〔 委託伐採【支所主体】・高所作業支援【地域主体】 〕

#### 通行支障木の伐採支援事業（地域予算提案事業）

○委託伐採／地域の申請に基づき支所が業者へ発注し伐採します。



東萩平町

○高所作業支援／地域が行う作業に対し、支所が高所作業車等の手配を行います。



万町町

### バスの利便性向上

[取組の考え方]

バスの利便性向上と利用促進の両面の取組を進めます。  
小中学生の移動手段としての機能アップを図ります。

<現状と課題>

- ・基幹バスは、通勤・通学時間等の混雑する時間帯がある。
- ・予約方法が分からぬお年寄りも多い。
- ・小中学生の利用促進も図る必要がある。
- ・インフラとして確保する必要があるが、利用率が低く市の負担も大きい。



おいでんバスを利用する高校生

<目指す状態>

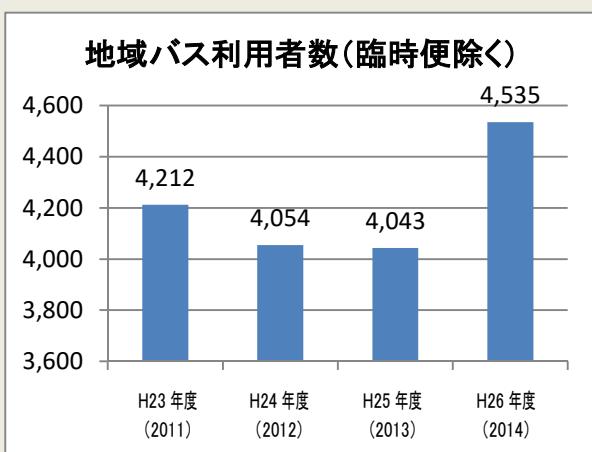
◎地域の足として、様々な地域行事の移動手段としても利用がされ、地域バスの利用者が年々増加している。

【地域バス利用者数】

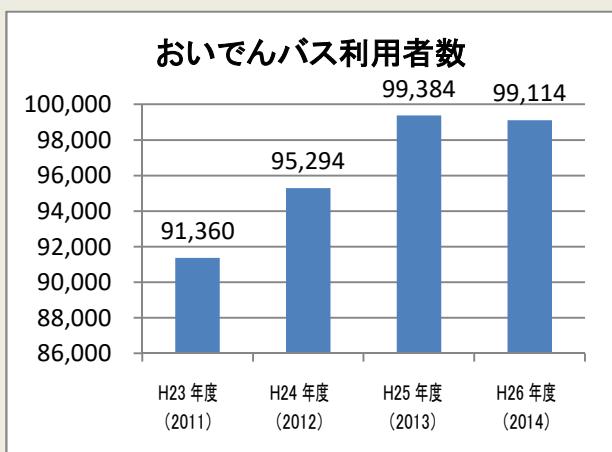
現状 4,535 人 (平成 26 年度)  
⇒ 平成 32 年度 5,000 人



【参考データ】地域バス・おいでんバス利用実績



旭地域バス (定期便・予約便)



旭・豊田線、旭・足助線

## 目標将来像1 若者が住み続けられる魅力あるまち 旭

### 具体的な取組 ①

#### 利用者ニーズに合ったバス運行の見直し

／旭地区内を始め中心市街地や隣接地区への移動を円滑にして利便性を高め、通学や通院などの地域の足を確保します。

### 役割分担と主な実施主体

地域 ○	利用者ニーズの集約・要望 【自治区・旭地域バスにのろまい協議会など】
行政 ◎	運行の見直し

役割区分：◎主体、○連携、△協力・サポート



### 取組手法や事業など

- 利用状況の検証・運営見直し  
〔停留所の増設・移設、運行内容の見直し〕
- 地域バス車両の購入 など



### 具体的な取組 ②

### 役割分担と主な実施主体

【新規】地域バスの利用促進	
／地域バスに乗車することの魅力を高め、利用率アップにつなげます。	

地域 ○	積極的な利用、魅力アップの実践【旭地域バスにのろまい協議会など】
行政 ○	運営支援（周知・PR等）

役割区分：◎主体、○連携、△協力・サポート



地域の足となっている 地域バス

### 取組手法や事業など

- (再掲) 地域バス乗車特典の実施  
〔エコポイント＆商品券発行 ※旭地域バスにのろまい協議会（旭商工会）〕
- 地域バスの利用促進に向けた各種検討 など  
〔地域の行事での活用、子どもやお年寄り向けの体験乗車の実施〕

目標将来像 2

## 地域が助け合い安心して暮らせるまち 旭



ぬくもりてらこやの様子【ぬくもりの里】

【この目標の取組分野】



- |         |                              |
|---------|------------------------------|
| 地域力分野   | ／地域活動分野に関する取組を進めます。          |
| 防災・防犯分野 | ／防災・防犯分野に関する取組を進めます。         |
| 健康・福祉分野 | ／健康維持や地域福祉分野に関する取組を進めます。     |
| 学習環境分野  | ／生涯学習や子どもたちの教育分野に関する取組を進めます。 |

### « 目指す まちの姿 »

◎地域住民同士が、自身の家族と同様にお互い様の気持ちを持って、世代間を越えて支え合える強い絆で結ばれ、積極的な地域活動が行われているまち



◎子どもたちは、自然と共にのびのびと安心して遊び学ぶことができ、地域ぐるみで子どもたちの健やかな成長を見守ってくれているまち

◎独居老人を含めた高齢者に対しても地域の目が行き届き、地域に支えられている安心感から不安なく暮らすことができるまち

### « 地域の取組紹介 »

#### 【事例①】

##### モリ券のデザインを子どもたちから募集

旭木の駅プロジェクト実行委員会では、発行する地域通貨『モリ券』のデザインを小渡小学校6年生から募集し、優秀作品は、1モリ券(1,000円)と半モリ券(500円)のデザインに採用されました。

こうした取組は、地元の子どもたちにも、まちづくりに関わっていただく良い機会になっています。



新しいモリ券と表彰された児童

#### 【事例②】

##### 減災ボランティアによる啓発活動

わくわく活動団体『旭 GS(減災)ボランティア』では、飛散防止フィルム貼り講習会の開催のほか、地域や小学校行事での減災指導を行うなど、様々な啓発活動を行っています。



飛散防止フィルムの貼り方の指導

#### 【事例③】

##### ヘルスサポートリーダーによる食育と健康づくり活動

『ヘルスサポートリーダー』は、食育と軽い運動による健康づくりの普及啓発に取り組むボランティアです。食と健康をテーマに地域の様々な行事やイベントなどで活動しています。



ヘルサポさんの活動の様子



分野  
地域力

# ・住民相互(結い)と連帯感の強化・

[取組の考え方]

既存の活動団体などの活力が生かされたまちづくりを進めます。



充実感を持って取り組むわくわく事業活動団体

### ＜現状と課題＞

・地域づくりに積極的に参加する人が増えているが、人口減少に伴い、地域の担い手が不足している。

### ＜目指す状態＞

◎課題の解決に向けて、行政の支援制度や外部人材を活用して維持・活性化に取り組む集落が増えている。

◎日頃から声を掛け合い、顔の見える関係が築けている。

### 【集落ビジョンに関連するわくわく事業数】

現状 5件 (平成26年度) ⇒ 平成32年度 5件

・(仮称)まちづくり活動団体認定制度<sup>※1</sup>の構築と運用

### ・具体的な取組 ①・

#### 集落ビジョンによる地域将来像の共有と推進

／支え合いの心で連帯感を強め、集落の地域力を高めます。

### ・役割分担と主な実施主体・

地域 ◎	集落ビジョンの推進【町内会】
行政 △	集落運営への助言・支援制度の周知

役割区分: ◎主体、○連携、△協力・サポート

### ・取組手法や事業など・

- ・集落ビジョンの推進
- ・地域の縁故者とのつながり維持
- ・福祉特派員制度<sup>※2</sup>の活用
- ・(附)わくわく事業の活用
- ・集落活動応援隊の活用 など



後期集落ビジョンの策定作業の様子

各集落で後期集落  
ビジョンを策定し  
ました。



※1 (仮称)まちづくり活動団体認定制度:活動団体の活力が生かされたまちづくりを推進するため、旭地域会議が地域に貢献している優れた活動を行う団体を認定する旭地区独自の制度として、現在(2015年)、検討を進めている仕組み

※2 福祉特派員制度:お年寄りや子どもなど、日々の生活の中で変化を感じた場合にぬくもりの里に伝える仕組みで、ぬくもりの里と地域をつなぐパイプ役として誰もが特派員になれる制度

## 目標将来像2 地域が助け合い安心して暮らせるまち 旭

### 具体的な取組 ②

#### 子どもやお年寄りを地域ぐるみで支える仕組みづくり

／個人や世帯では困難なこと、負担の大きいことを、地域で助け合い、結いの精神で支え合います。

##### 役割分担と主な実施主体

地域 ◎	地域による声掛け・見守り活動の実施 【自治区・町内会、民生児童委員など】
行政 ○	見守り事業の推進

##### 取組手法や事業など

- 日常的なご近所同士の声掛けの推進  
(元気確認)
- あさひ高齢者見守り事業 (地域予算提案事業)
- (再掲) 集落ビジョンの推進
- (再掲) 福祉特派員制度<sup>※2</sup> など

役割区分：◎主体、○連携、△協力・サポート

##### 具体的な取組 ③

#### わくわく事業などを活用した地域力の向上と担い手の育成

／地元の人材や団体が持つノウハウを生かし合い・補完し合いながら、地域力を結集し、まちづくりを進めます。



集落活動応援隊による  
景観整備活動の応援

##### 役割分担と主な実施主体

地域 ◎	地域課題の解決とより良い地域づくり【自主活動団体】
行政 ○	認定制度の構築と運用・側面支援

##### 取組手法や事業など

- (再掲) わくわく事業の活用
- (仮称) まちづくり活動団体認定制度<sup>※1</sup> の構築  
〔まちづくり活動を展開する団体への側面支援 (活動PR、助言など)〕
- ・愛知学泉大学との連携事業<sup>※3</sup> の推進 など  
〔学生ボランティアの活用〕

役割区分：◎主体、○連携、△協力・サポート

※3 愛知学泉大学との連携事業：社会に貢献できる人材育成を図るため、大学の授業の一環として平成28年度（2016年）から学生が旭地区でボランティア活動を実施する事業

分野  
防災・防犯

### 防災体制の充実

[取組の考え方] 防災体制の強化と防災意識の向上の取組を進めます。

#### 〈現状と課題〉

- ・各地で頻発するゲリラ豪雨災害や東南海地震の発生が懸念される中で、地域住民の有事に備えた常日頃の防災意識が低い。
- ・危険箇所マップは整備されたが活用がされていない。
- ・矢作ダムが決壊した場合を不安視する声がある。



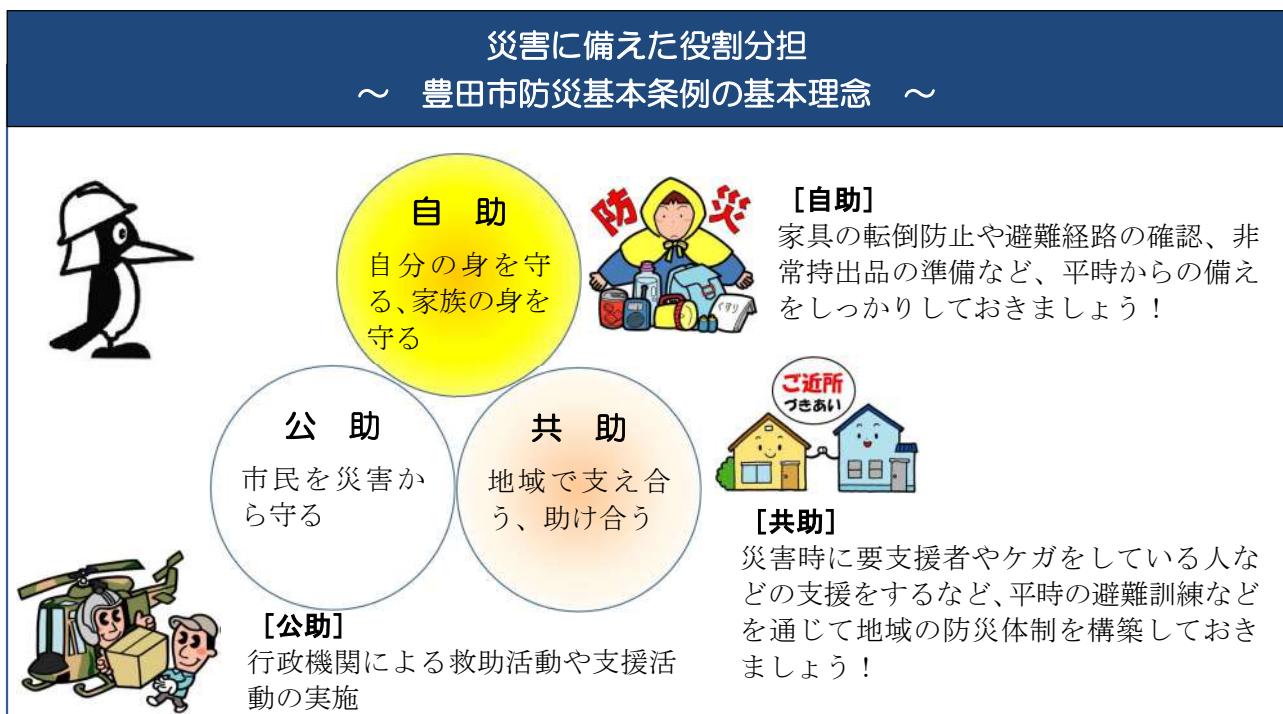
消防団による放水訓練の様子

#### 〈目指す状態〉

○危険箇所マップや避難支援プランを含めた具体的な行動マニュアルが作成され、それに基づく避難訓練の実施を通して災害時に集落全体が安全に避難できるようになっている。

#### 【避難行動マニュアル策定自治区数】

現状 0 件 (平成 26 年度) ⇒ 平成 32 年度 5 件



## 目標将来像2 地域が助け合い安心して暮らせるまち 旭

### 具体的な取組 ①

#### 地域の危険箇所、避難経路の確認など防災・減災意識の高揚

／土砂災害や河川の氾濫に備えて、具体的な避難方法を周知徹底するほか、危機意識を持って着実に減災体制を強化します。

### 役割分担と主な実施主体

地域 ◎	具体的な避難行動訓練の実施 【自主防災会、消防団、旭GSボランティアなど】
行政 △	各種制度による支援

役割区分：◎主体、○連携、△協力・サポート

### 取組手法や事業など

- ・地域力による減災（GS）啓発事業（地域予算提案事業）
- ・災害時避難訓練の実施
- 〔防災マップや避難行動マニュアルに基づく消防団と連携した実践的な訓練の実施〕
- ・災害時避難行動マニュアルの作成など
- 〔安否確認の方法、避難誘導、避難所の運営方法、支援行動等のマニュアル化〕

### 具体的な取組 ②

#### 減災に向けた地域の支援体制づくり

／地域力による減災体制を推進します。



旭 GS ボランティアによる啓発活動

### 役割分担と主な実施主体

地域 ◎	減災講習会の実施【自主防災会、消防団、旭GSボランティアなど】
行政 △	各種制度による支援

役割区分：◎主体、○連携、△協力・サポート

### 取組手法や事業など

- ・小渡自治区避難行動マニュアル（事例）の見せる化
- ・自主防災会事業補助金の活用  
〔支援制度を活用した資機材の充実〕
- ・情報伝達手段の周知  
〔テレホンサービスや緊急メールによる登録方法等の周知〕
- ・避難行動要支援者情報等の更新など



#### 【地域力による減災（GS）啓発事業（地域予算提案事業）の実施内容】

自主防災会、消防団、旭 GS ボランティアとの情報交換会の実施、減災に関する講座・訓練会の実施、飛散防止フィルム貼りや転倒防止対策の普及促進など

分野  
防災・防犯

### 防犯意識の高揚

[取組の考え方]

住民相互の繋がりによる犯罪が起きにくい地域づくりを進めます。

#### ＜現状と課題＞

- ・『地域の目』の安心感があるが、近年では犯罪の発生が増えつつある。
- ・ひとり暮らし高齢者や高齢者のみの世帯が多く振り込め詐欺などの危険が潜んでいる。
- ・地域の子どもが少なく、安心して外で遊ばせることができない状況もある。

#### ＜目指す状態＞

○住民同士の顔を通わせたコミュニケーションがより図られ、地域の目が行き届いた犯罪に強い地域になっている。

○高齢者や子どもなどへの周囲の見守りを率先して行っている。

- ・スクールガード活動の継続的な実施



地域によるスクールガード活動

#### ・具体的な取組 ①

### 子ども・お年寄りの見守りパトロールなど自主防犯活動の強化

／自分の安全は自分で守る防犯意識を高めます。また、地域の絆の強さを安全安心なまちづくりに生かします。

#### ・役割分担と主な実施主体

地域 ◎	自主防犯活動の推進【自治区・町内会など】
行政 △	活動資材の提供

役割区分：◎主体、○連携、△協力・サポート

#### ・取組手法や事業など

- ・自主防犯活動の実施  
〔自主防犯活動物品支給制度等の活用〕
- ・登下校時の子どもの見守り活動  
〔こども110番、スクールガード〕
- ・高齢者の犯罪被害防止活動  
〔ご近所同士の声掛け、意識啓発〕
- ・青パトを活用した防犯啓発活動の実施 など

分野  
健康・福祉

## 健康増進の推進と福祉の向上

[取組の考え方]

日常生活の中で、ごく自然に負担なく取り組め、かつ、健康維持及び見守りの充実につながる対策を進めます。

<現状と課題>

- ・講座の積極的な活用による健康づくりの推進は、個人の意識に差がある。
- ・高齢者にとっては、声を掛けることが重要である。
- ・高齢者の見守り環境は、集落ごとに状況が異なり、統一した取組は困難である。



各地域で行われている ふれあいサロンの様子

<目指す状態>

◎自身が考える健康の秘訣があり、それを生き生きと実践する生活を送っているお年寄りが多い。

◎地域の目が行き届き緊急時に助け合える関係性があり、安心して暮らすことができる。

### 【ふれあいサロンの実施箇所】

- ・現状 25 箇所 (平成 26 年度) ⇒ 平成 32 年度 現状維持以上

### 具体的な取組 ①②

#### 健康寿命の延伸活動と地域保健福祉体制の充実

／自分の健康状態を常に把握し、健康に対する意識を高めるほか、日常生活の中で、体力維持や病気予防に努めます。

### 役割分担と主な実施主体

地域 ◎	各種講座の開催【ぬくもりの里、ヘルスサポートリーダーなど】
行政 △	取組の周知、PR
地域 ◎	地域による声掛け・見守り活動の実施【自治区・町内会、民生児童委員など】
行政 ○	見守り事業の推進

役割区分: ◎主体、○連携、△協力・サポート

### 取組手法 や 事業など

- ・ヘルスサポートリーダーと連携した高齢者の居場所づくりの実施
- ・里山げんきグループ活動（健康づくり・介護予防活動）の支援
- ・(再掲) あさひ高齢者見守り推進事業（地域予算提案事業）
- ・地域ふれあいサロンの実施
- ・高齢者の安心支援サービス（ひとり暮らし高齢者登録制度、ささえあいネットなど）の活用
- ・おしゃべりカフェ ぬくもりの開催支援 など

分野  
健康・福祉

### 子育て環境の充実

[取組の考え方]

既存の活動と連携して子どもの居場所づくりや母親同士の仲間づくりの取組を進めます。

#### 〈現状と課題〉

- ・子どもの人口が減少し、同年代との遊びや触れ合う機会が少ない。
- ・親同士が集まる場が限られ、子育ての悩みを分かち合う機会が少ない。
- ・不慣れな環境に嫁いで来た女性にスポットを当て、孤立しない環境をつくる必要がある。



ぬくもりてらこやの様子

#### 〈目指す状態〉

- ◎子どもを安心して預けられる機会が増え、地域の大人たちが我が子同然に子どもたちを教育する姿がよく見られる。
- ◎育児の先輩や母親同士の交流があり、お互いの知識が共有される機会が増え、女性の気晴らしの場になっている。

- ・既存の子育て支援グループの活動の継続
- ・母親グループの自然発生的な発足

#### 【参考事例】

##### 子育て支援グループによる 『ぬくもりてらこや』の開催

子育て支援グループ『たんぽぽ』では、小学生を対象に夏休み期間中などの長期の休みを利用して、ぬくもりの里で寺子屋を開設しています。



大学生に勉強を教わる子どもたち

大学生ボランティアの指導による勉強会や施設利用者との交流など、子どもたちの居場所づくりのほか、地域の人々とのふれあいを通じて様々なことを学ぶ良い機会になっています。



#### 【参考データ】

##### 生徒・児童の在籍人数

学校名	年度				
	H23 (2011)	H24 (2012)	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)
旭中学校	66	68	65	53	48
小渡小学校	49	44	43	46	41
敷島小学校	45	52	54	53	49
築羽小学校	11	閉校	–	–	–
計	171	164	162	152	138

各年5月1日現在(単位:人)

具体的な取組 ①

子どもの居場所づくりと子育て支援の拡充

- ／子どもは「地域の宝」。地域みんなで子どもを見守り育てる地域づくりを進めます。
- ／既存の活動団体と連携し、地域の子どもを対象にした催しの機会を増すとともに、安心して子どもを預けられる環境を整備します。

役割分担と主な実施主体

地域 ◎	子どもの居場所づくり事業の企画・運営【交流館・自主サークル、各種活動団体など】
行政 ○	放課後児童クラブへの支援、取組の周知、PR

取組手法や事業など

- ・子育て支援（施設・組織）の活用・連携  
〔子育て支援センター、つくしんば（交流館講座）など〕
- ・子どもの居場所づくり活動との連携  
〔放課後児童クラブ、ぬくもりてらこや（たんぽぽ）への支援〕
- ・子どもを主な対象とした既存の自主活動との連携
- ・学校への協力を含めた地域の活動の実施 など

役割区分：◎主体、○連携、△協力・サポート

具体的な取組 ②

【新規】母親同士の仲間づくり

- ／母親同士が情報交換を通じて仲間づくりの輪を広げ、家庭や子育ての悩みの解消や孤立防止を図ります。

役割分担と主な実施主体

地域 ◎	母親同士の交流の場づくり 【たんぽぽ、交流館・自主サークルなど】
行政 △	取組の周知、PR

役割区分：◎主体、○連携、△協力・サポート

取組手法や事業など

- ・子どもが集まる機会を利用した母親同士の仲間づくりの充実 など  
〔たんぽぽ、交流館講座つくしんば、自主サークルなどとの連携〕



# 生涯学習の充実

[取組の考え方]

交流館講座や地域行事の中で仲間づくりや伝統文化の継承を進めます。

＜現状と課題＞

- ・趣味や娯楽活動への参加は、個人の意欲や意思による。
- ・交流館利用者の年齢層や地域性が固定化している。
- ・棒の手や太鼓を始め郷土芸能や郷土料理などの伝統文化は、既に継承していく風土ができつつある。



旭の棒の手の伝承

＜目指す状態＞

◎地域資源を生かした趣味を見つけるほか、仲間と楽しく過ごすための楽しみを見つけて、一人ひとりが日々の暮らしを生き生きと過ごせている。

- ・ニーズに応じた交流館講座の開催

・具体的な取組 ①②

・役割分担と主な実施主体

### 趣味や娯楽の活動を通した人々が集う場所づくり

／趣味や娯楽など、積極的に楽しみを見つけて、豊かな人生を送る。学習や趣味の活動を通して、仲間を増やし、交流を深めます。

地域 ◎	講座の開催【交流館、自主サークルなど】
行政 △	取組の周知、PR

### 郷土芸能、郷土料理など伝統文化の継承

／芸能や食文化など、旭の歴史、伝統、地域資源を大切に継承する。  
／地域のお年寄りから直接学ぶ機会を増やし、知識や技術を後世に継承します。

地域 ◎	伝統・文化の指導と伝承【保存会、自治区・町内会、旭特技登録活用制度※登録者など】
行政 △	制度の運用と見直し

役割区分：◎主体、○連携、△協力・サポート

・取組手法  
や  
事業など

- ・交流館事業（自主グループ活動）のPR、仲間づくりの促進  
〔 交流館事業や個人的な趣味・娯楽活動を周知し、参加できる窓口の拡充 〕
- ・旭特技登録活用制度※の普及、人材資源の活用 など



※旭特技登録活用制度：様々な知識や技術を持っている人を登録し、その特技を各種講座や自主グループの活動に生かす制度

分野  
学習環境

## 子どもたちの教育環境の充実

[取組の考え方]

地域の大人から地元を教わる機会を増やし、子どもたちに地元に関心を持ってもらうほか、子どもたちのアイデアをまちづくりに積極的に生かす機会を増やします。

<現状と課題>

- ・能力を持った人はいるが、学校の授業で生かされる機会が少ない。
- ・有間竹林愛護会（わくわく活動団体）では、小学校やこども園に参加を呼びかけ、竹の子掘りの体験を行っている。



あんぱの作り方を教える地域住民

<目指す状態>

- ◎豊かな自然、地域資源、伝統文化を活用した特色ある学校づくりができている。
- ◎地域住民が学校運営に積極的に関わり支援するとともに、まちづくりの担い手の一員として、生徒・児童の力を生かさせている。

- ・生徒・児童が関わるまちづくり事業（取組機会）の増加

具体的な取組 ①②

役割分担と主な実施主体

### 地域と学校が一体となった人づくり、教育の場づくり

／子どもたちが、人や歴史、自然など旭地区全体を学び舎とする環境をつくるほか、児童や生徒の力やアイデアを地域づくりに生かします。

地域 ○	郷土学習への協力【旭特技登録活用制度※登録者、各種活動団体など】
行政 ◎	地域行事への参加の推進【小・中学校】

### 人材バンクを活用した地域学習の活性化

／地域の大人たちが子どもたちの教育に関心を持ち、学校運営に積極的に参加支援するとともに、児童生徒たちが大人になっても心に残る地域学習を進めます。

地域 ○	郷土学習への協力【旭特技登録活用制度※登録者、各種活動団体など】
行政 ◎	旭特技登録活用制度※の運用と見直し

役割区分：◎主体、○連携、△協力・サポート

取組手法  
や  
事業など

- ・郷土学習の推進、地域住民の学校教育への参加・協力
- ・児童・生徒の地域活動への積極的な参加
- ・（再掲）旭特技登録活用制度※の活用・普及
- ・活動団体が実施する事業の児童への参加・協力の呼びかけ など

※旭特技登録活用制度：様々な知識や技術を持っている人を登録し、その特技を各種講座や自主グループの活動に生かす制度

目標将来像 3

## 誰もが訪れたくなる美しい山里 旭



上中のしだれ桃【上中町】



### 【この目標の取組分野】

産業・観光分野／産業振興や観光振興分野に関する取組を進めます。  
農地・森林分野／農林業分野に関する取組を進めます。

### « 目指す まちの姿 »

- ◎潜在的な価値を持つ森林や農地に人の手がしっかりと入り、山里の豊かな恵みが未来に引き継がれているまち
- ◎農林業に関わりを持つ暮らしに豊かさを実感できるまち
- ◎旭地区の自然豊かな景観を生かした四季の魅力に富む取組や、地域住民とのふれあいが訪れる人々を楽しませ、誰もが何度も訪れたいと感じるまち



### « 地域の取組紹介 »

#### 【事例①】

##### 森の健康診断の実施

あさひ森の健康診断実行委員会（わくわく事業活動団体）では、森の健全化に向け、旭地区内の各所で『森の健康診断』を実施しています。この診断を通じて、森の状態の良し悪しを確認するだけでなく、地区内外の参加者が森に触れることで、森に関心を持つていただききっかけづくりにも繋がっています。



森の健康診断の様子

#### 【事例②】

##### 森林資源の有効活用

あさひ薪づくり研究会（わくわく事業活動団体）では、間伐材を薪材として加工し販売する仕組みづくりを研究しています。薪の需要が増えつつある中で、新たな産業として期待されています。



きれいに積まれた薪

#### 【事例③】

##### 夢かけ風鈴まつりとゆかたの着付けのコラボレーション

夢かけ風鈴まつりを主催する『小渡の夢をかなえる会』と、衣装の貸出しや着付けを行う『旭女性の会』が連携し、夢かけ風鈴まつりのイベント期間中に『ゆかたの着付け』を行いました。会場には、ゆかた姿の観光客が増え、華やかな雰囲気に包まれていました。



ゆかた姿の観光客

活動団体同士が手を結んだことで、新たな効果（まちづくりのハイブリッド効果）が生まれた取組となりました。



分野  
産業・観光

### 地域資源を活用した産業の育成

[取組の考え方]

既存の制度のほか、地域に存在する物や建物、人材を利用して地域産業として育てていく取組を進めます。

#### ＜現状と課題＞

- ・特産品はあるが、旭地区内で食べられる場所がない。
- ・後継者育成が進んでいない。
- ・販路の確保が課題であり、特産品の開発が進んでいない。
- ・旭地区では特産品開発のための資機材や設備が乏しい。



#### ＜目指す状態＞

- ◎観光客が気軽に立寄れる店舗があって、季節の料理や特産品（和菓子、五平餅、自然薯、季節の野菜、薪、薪ストーブなど）がいつでも飲食または購入できる。
- ◎空き店舗が減少し、商店街の活気が保たれている。
- ・空き店舗等を活用した店舗やおもてなし施設が増加

#### 具体的な取組 ①

イベントでの農産物の販売

### 地元の素材や伝統的な食文化を活用した特産品開発と流通促進

- ／地元の素材や伝統の食文化を活用して、特産品の開発を進めます。
- ／現存施設や土地の有効活用により、更なる流通を促進します。

#### 役割分担と主な実施主体

#### 取組手法や事業など

地域 ◎	特産品開発、活用可能な施設及び土地を活用した販路の開拓 【旭商工会、商店、旭観光協会、各種活動団体など】
行政 △	各種制度による支援

- ・地域資源を活かした花の里づくり事業の推進（地域予算提案事業）
- ・旭商工会（関係団体含む）との連携強化
- ・農商工連携・6次産業化支援事業の活用
- ・（再掲）わくわく事業の活用
- ・ブランド化認定制度の検討など  
〔キャラクター使用規定の整備など〕

役割区分：◎主体、○連携、△協力・サポート

### ・ 具体的な取組 ② ・

#### 【新規】チャレンジショップによる産業の活性化

／空き店舗を臨時に活用して、地元特産品を販売することにより、地元産業の活性化を図るとともに観光PRにつなげます。

### ・ 役割分担と主な実施主体 ・

地域 ◎	空き店舗の把握・出店者(チャレンジャー)の募集【旭商工会、地域、各種活動団体など】
行政 △	各種制度による支援

役割区分：◎主体、○連携、△協力・サポート



旭山女学園大学との連携による  
『旭ごはん』試食会の実施

### ・ 具体的な取組 ③ ・

### ・ 取組手法や事業など ・

#### 【新規】優れた人材の知識共有による後継者育成

／ノウハウを持った人材や団体の活用・連携により、特産品開発に関する新規事業や事業拡大希望者を支援して後継者育成につなげます。

### ・ 役割分担と主な実施主体 ・

地域 ◎	ノウハウの提供による後継者育成【商店、(仮称)まちづくり活動団体認定制度 <sup>※2</sup> 登録団体】
行政 △	(仮称)まちづくり活動団体認定制度 <sup>※2</sup> 登録団体への側面支援

役割区分：◎主体、○連携、△協力・サポート

- ・(再掲)旭商工会(関係団体含む)との連携強化
- ・空き店舗等の施設の利活用の検討  
〔シーズンオフ等も含む空き店舗の活用〕
- ・(再掲)イベント開催に合わせたチャレンジショップ<sup>※1</sup>実施の検討
- ・店舗用共同駐車場の整備・運用の検討
- ・駐車場案内看板の充実
- ・(再掲)わくわく事業の活用
- ・(再掲)ブランド化認定制度の検討(旭観光協会)
- ・(再掲)(仮称)まちづくり活動団体認定制度<sup>※2</sup>登録団体の活用
- ・後継者育成に向けた支援策の検討など

#### 【 地域資源を活かした花の里づくり 事業の推進(地域予算提案事業)の実施内容 】

花街道整備に向けた花木等の配付、イベント開催支援など

※1 チャレンジショップ：起業に向けた体験型のお店

※2 (仮称)まちづくり活動団体認定制度：活動団体の活力が生かされたまちづくりを推進するため、旭地域会議が地域に貢献している優れた活動を行う団体を認定する旭地区独自の制度として、現在(2015年)、検討を進めている仕組み

分野  
産業・観光

### 観光拠点の整備と情報発信

[取組の考え方]

既存の観光施設や観光資源の連携だけでなく、活動団体の事業(体験・イベント含む)とも連携するなどして、地域資源をフルに活用し、滞在時間の増加を図る取組を進めます。



小渡の風鈴行列

#### ＜現状と課題＞

- ・観光客は年々、増加傾向にある。
- ・一方で、様々な世代が季節に応じて楽しめる周遊ルートがない。
- ・1日を通じて滞在ができるような、観光施設(拠点)が整っていない。また、連携が図れていない。

#### ＜目指す状態＞

- ◎観光拠点(旭高原、小渡、笹戸等)と地域に点在する観光資源が連携し、四季を通じた周遊型、体験型観光が充実している。
- ◎旭観光協会のホームページを閲覧すれば、欲しい情報がいつでも得られる。

#### 【観光施設入込客統計調査&イベント入込客数】

- ・現状 378,771人(平成26年度) ⇒ 平成32年度 430,000人



#### 【旭観光協会のホームページアクセス数】

- ・現状 52,592件(平成26年度) ⇒ 平成32年度 60,000件

#### 具体的な取組 ①

### あさひ観光案内所を拠点とした観光関連情報の集約と情報発信

／観光に結び付く団体や関係機関と連携し、旭観光協会のホームページの充実を図るとともに、積極的な情報収集と戦略的な情報発信を行います。

#### 役割分担と主な実施主体

地域 ◎	観光関連情報の集約と情報発信 【旭観光協会、旭高原元気村など】
行政 △	豊田市ホームページを活用した観光情報の紹介

#### 取組手法や事業など

- ・旭観光協会のホームページの充実
- ・(再掲)(仮称)会員制旭ファンクラブの運用に向けた検討など
- 〔旭商工会、旭観光協会や他の関係団体との連携による協力店でのポイント発行と特典〕

役割区分: ◎主体、○連携、△協力・サポート

## 目標将来像3 誰もが訪れたくなる美しい山里 旭

### 具体的な取組 ②

#### 里山景観や河川、温泉、農林業体験を効果的に活用した観光振興

- ／温泉、花、水の郷、森林などの地域資源を活用し、周遊型・体験型観光を推進します。
- ／地域内団体の連携により、四季を通した幅広い観光客の集客を図ります。

### 役割分担と主な実施主体

地域 ◎	各種活動団体との連携による観光の推進【旭観光協会、旭商工会、温泉組合、小渡観光やな、旭高原元気村、各種活動団体など】
行政 △	各種制度による支援



役割区分：◎主体、○連携、△協力・サポート

### 具体的な取組 ③

### 取組手法や事業など

#### 旭高原元気村を活用した地域経済の活性化

- ／旭高原整備（再生）事業の早期実現と、旭高原の資源を生かした体験型プログラムの充実を図ります。

### 役割分担と主な実施主体

地域 ◎	体験型プログラムの充実、各種活動団体の体験事業との連携【旭高原元気村、（仮称）まちづくり活動団体認定制度※登録団体など】
行政 ◎	旭高原整備（再生）事業の推進

役割区分：◎主体、○連携、△協力・サポート

- ・（再掲）地域資源を活かした花の里づくり事業（地域予算提案事業）
- ・観光まちづくり事業の充実（夢かけ風鈴まつり、じねんじょ・もみじまつり等）
- ・活動団体事業との連携企画の検討
  - 各種活動団体が実施している田植え・稻刈り体験、ツリークライミング、竹の子掘り体験、カヌー体験など
- ・旭高原元気村整備事業の推進 など

旭地区には、既に各種活動団体が実施している様々な山里体験事業などがあります。こうした事業と連携することで、観光メニューの幅が広がり、四季を通じた集客が期待されます。



※（仮称）まちづくり活動団体認定制度：活動団体の活力が生かされたまちづくりを推進するため、旭地域会議が地域に貢献している優れた活動を行う団体を認定する旭地区独自の制度として、現在（2015年）、検討を進めている仕組み

分野  
農地・森林

### ・ 営農体制の整備と獣害対策

[取組の考え方] 既存の制度や仕組みを利用して営農体制の持続化を図ります。

#### ＜現状と課題＞

- 耕作放棄地が増加しており、かつ、不在地主も多く農地が管理されていない。
- 農地バンク制度に登録しているが、利用者が見つからない現状がある。
- 獣害被害が多いほか、捕獲後の獣肉の活用が進んでいない。



稲刈り作業の様子

#### ＜目指す状態＞

- ◎集落営農が広く取り組まれ、営農基盤が強化されつつある。
- ◎農業体験を目的に遊休農地が活用され、美しい農村景観が守られている。

#### 【集落営農組合数】

- ・現状 5団体（平成26年度） ⇒ 平成32年度 10団体



#### 【耕作放棄地を活用した農業体験事業数】

- ・現状 2事業\*（平成26年度） ⇒ 平成32年度 5事業

\*把握している範囲（太田町・杉本町）

#### ・ 具体的な取組 ①

#### 集落営農の取組と担い手の育成による営農基盤の強化

／農業機械の共同利用や作業の共同化により農業生産活動の効率化を図ります。

#### ・ 役割分担と主な実施主体

地域 ◎	集落営農への取組【集落】
行政 △	各種制度による支援

役割区分：◎主体、○連携、△協力・サポート

#### ・ 取組手法や事業など

- ・集落営農事業の推進（各種支援制度の活用）
- ・農地環境整備事業の推進 など



## 目標将来像3 誰もが訪れたくなる美しい山里 旭

### 具体的な取組 ②

#### 農地バンク制度など遊休農地の利活用

- ／地域や外部の力を活用して、美しい農村景観を守ります。  
／優良農地を保存しつつ農地の転用等を含めた遊休地の利活用の検討を進めます。

### 役割分担と主な実施主体

地域 ◎	遊休農地の利活用の検討【集落】
行政 △	各種制度による支援

役割区分：◎主体、○連携、△協力・サポート



- 取組手法や事業など
- ・農地バンク制度の活用
  - ・(再掲) わくわく事業の活用  
〔市民農園やブルーベリー農園の開設など〕
  - ・都市と農山村の交流・外部活力の活用  
〔稲作体験などによる耕作放棄地解消、おいでん・さんそんセンターと連携した農業体験の実施〕
  - ・お試し農園の活用 (太田町)
  - ・(再掲) 農振農用地の計画的な解除に向けた検討 など

### 具体的な取組 ③

#### 鳥獣の防除、捕獲、農地復旧が一体となった獣害対策の拡充

- ／支援制度を活用して鳥獣害対策を進めるとともに、獣肉処理施設（足助地区）を積極的に利用し獣肉活用を推進します。

### 役割分担と主な実施主体

地域 ◎	鳥獣害対策の検討【集落】
行政 △	各種制度による支援

### 取組手法や事業など

- ・獣肉活用施設（足助地区）の活用
- ・獣害対策支援制度の活用

役割区分：◎主体、○連携、△協力・サポート

分野  
農地・森林

### 森林再生と森林資源の活用

[取組の考え方]

既存の制度や仕組みを利用するほか、活動団体や企業と連携した効果的な取組を進めます。

#### ＜現状と課題＞

- ・旭木の駅プロジェクト<sup>※1</sup>により森林に価値が生まれたほか、あさひ森の健康診断実行委員会や民間事業者などにより森林保全の活動が広がりつつある。
- ・一方で、荒廃した森林が多くを占めている。



木の駅の土場に木材を搬入する山主

#### ＜目指す状態＞

- ◎森林の団地化と人工林の間伐が進み、健全な森林が増えている。
- ◎間伐材の利活用により、地域経済の活性化に寄与している。

#### 【森づくり会議・団地数】

- ・現状 20会議・65団地(平成26年度) ⇒ 平成32年度 25会議・75団地

#### 【旭木の駅プロジェクト<sup>※1</sup>出荷量】

- ・現状 341トン(平成26年度) ⇒ 平成32年度 350トン

#### ・具体的な取組 ①・

### 森林の団地化による間伐の促進と森林資源の有効活用

- ／森林の持つ機能を再認識して地域の森林への関心を深めるほか、森づくり会議を設置して、森林の団地化を図り間伐を進めます。
- ／森林を地域資源として捉え、積極的に木材を利用します。

#### ・役割分担と主な実施主体・

#### ・取組手法や事業など・

地域 ◎	森づくり会議の設置、森林資源の有効活用 【自治区・町内会、森林組合、旭木の駅プロジェクト実行委員会、あさひ薪づくり研究会ほか各種活動団体など】
行政 △	各種制度による支援

役割区分：◎主体、△連携、△協力・サポート

※1旭木の駅プロジェクト：旭木の駅プロジェクト実行委員会が、山主から出荷された間伐材等を木材加工業者に売却し、それを財源に発行した『モリ券(地域通貨)』により、出荷材の対価として支払う仕組み

### 具体的な取組 ②③

### 役割分担と主な実施主体

#### 【新規】森林保全に取り組む団体や企業との連携強化

／森林保全に取り組む団体や企業と連携して、幅広い市民参加による森林保全活動の推進と市民周知を図ります。

地域 ◎	市民参加による森林保全活動の実施 【自治区・町内会、旭木の駅プロジェクト実行委員会、あさひ薪づくり研究会ほか各種活動団体など】
行政 △	活動団体の連携支援、森林保全活動の市民周知

#### 【新規】林育※2 の推進

／学校教育・家庭教育・関連イベントの中で、木に触れ合い、親しむことができる機会づくりを進め、林育の普及・促進を図ります。

地域 ◎	林育※2 活動の実施 【学校、旭木の駅プロジェクト実行委員会、あさひ薪づくり研究会ほか各種活動団体など】
行政 △	活動団体の周知・PR

役割区分：◎主体、○連携、△協力・サポート

### 取組手法や事業など

- ・都市と農山村の交流・外部活力の活用による森づくりの推進
  - 森林ボランティアの活用、おいでん・さんそんセンターと連携した森林保全活動の実施
- ・各種活動団体と連携した事業の実施
  - 団体の活動PR、参加促進、体験型授業の開催、薪ストーブの実演や宿泊体験（まちづくり活動団体の認定、側面支援／森の健康診断、薪販売、ツリーハウス・クライミング体験など）
- ・木材加工施設（2018年稼働予定）の活用



チェーンソー目立て講習会の様子

※2 林育：旭地区独自の造語。

子どもを始めとする全ての人々が、林の中で木や土、生物など様々なものとふれあい学ぶ活動を旭地区では「林育」としました。



ツリーカラーミング

### 【参考データ】

旭木の駅プロジェクト※1 の実績			
項目	年度 H24 (2012)	年度 H25 (2013)	年度 H26 (2014)
出材量	350 トン	316 トン	359 トン
モリ券発行枚数	1,913 枚	1,861.5 枚	3,908 枚
出荷者	53 人	58 人	58 人
登録商店	34 店	35 店	35 店

※この取組により、森林に人の手が入るようになったほか、モリ券の発行による地域経済の循環にもつながっています。



## 資料編

○旭地区まちづくり計画 第1期5か年計画〔2011～2015〕の総括

○計画策定の主な経緯

○計画策定委員



幸村副市長と第5期旭地域会議委員

# 旭地区まちづくり計画第1期5か年計画【2011~2015】の総括

## 1 旭地区まちづくり計画の概要

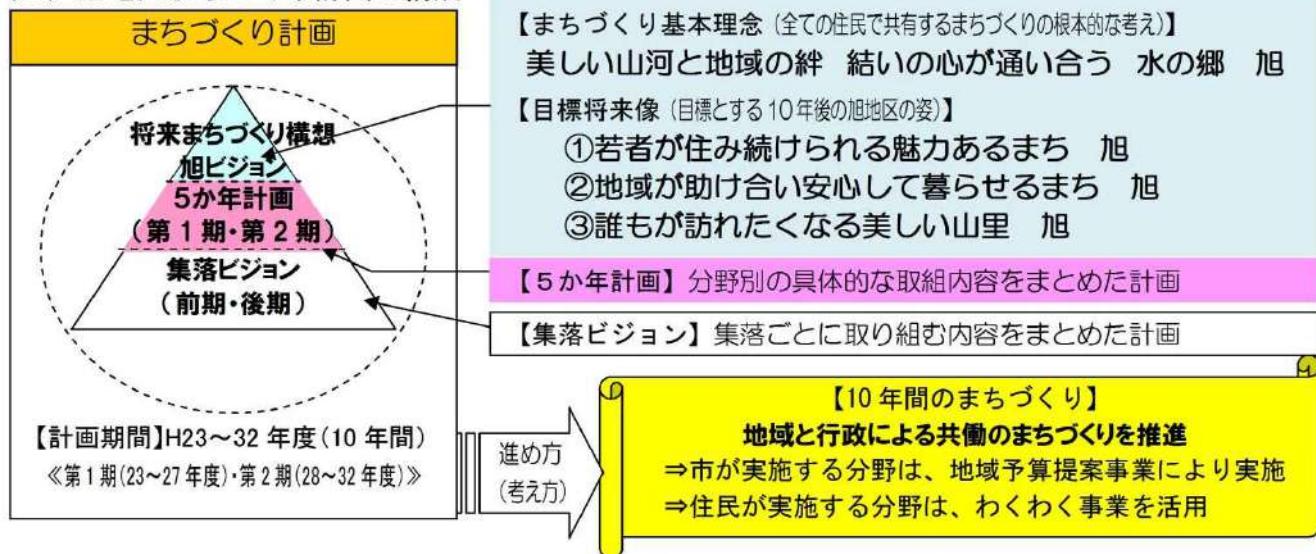
### (1) 計画策定の経緯

旭地区では、人口の減少、高齢者の増加、農地の荒廃といった過疎化が進んでいる状況の中で、長期的な展望を踏まえつつ、今後のまちづくりを効果的に進めるため、平成23年度に「持続可能な地域づくり協議会(地域会議専門部会)」を設置し、「旭地区まちづくり計画」を策定しました。

現在、旭地区では、この計画を「道しるべ」としながら10年間のまちづくりを推進しております。



### (2) 旭地区まちづくり計画の構成



## 2 第1期5か年計画の主な事業実績

### (1) 各種事業の進捗状況

計画に位置付けられた施策・事業は、一部未着手があるものの、概ね計画どおりに進めることができました。



▲旭木の駅プロジェクト(出荷) ▲小渡中央広場バス待合所(開所式) ▲防災マップ作成事業(表記された小渡自治区)

目標 (関連分野)	事業数	進捗状況			主な事業実績	* : 地域予算提案事業
		未着手	進行中	完了		
①	道路・交通	9	0	6	3	小渡中央広場整備*(H24完) / 待合所・駐輪場、トイレ整備、舗装整備 通行支障木伐採支援事業* / 延べ57か所(6,760m)解消(H26年度末) 予約バスの運行 / H23年度から運用開始
	定住・生活	12	1	9	2	空き家情報バンク / 延べ26組 58人移住(H26年度末) 低家賃モデル住宅整備(H24完) / H25から供用開始、延べ11世帯20人移住
②	防災・防犯	6	1	4	1	防災マップ作成(H25完) / 全自治区で策定済み
	健康・福祉	9	1	7	1	放課後児童クラブ開設(H26完) / 小渡小・敷島小で開設済み
	学修環境	5	0	5	0	高齢者見守り事業* / 緊急時連絡先情報カード作成・配付(430世帯)
	地域力	3	0	3	0	わくわく事業 / 申請団体数 毎年9~14団体(うち新規2~5団体)
③	産業・観光	9	0	5	4	花の里づくり事業* / 花木支給(延べ1,405本)、特産品開発、イベント開催 観光案内看板整備*(H24完) / 68基設置済み
	農地・森林	7	0	7	0	旭木の駅PJ* / 各年度 出材300~350t、モリ券約2,000~3,000枚発行 森づくり会議設置・団地化促進 / 20会議設置、65の団地化(H26年度末)
合計		60	3	46	11	
			5.0%	76.7%	18.3%	

## (2) 特徴的な事業の実施状況（H26年度末現在）

### ①空き家情報バンク制度

地域の積極的な働きかけによる空き家の発掘や受け入れ体制の充実により、旭地区は、**空き家登録数・成約実績が共に市内で最も高く、市外からの視察や雑誌の取材対応など、全国的にも高い評価を受けております。**



### ②わくわく事業

毎年、多くの活動団体がわくわく事業を活用し、**住民レベルのまちづくりの取り組みが進められております。その中でも集落ビジョンの策定を契機に制度を活用して取り組みを進めている集落の姿も伺えるようになりました。**

### ③旭木の駅プロジェクト

仕組みが定着し、木材の出材量やモリ券発行枚数が共に年々増加しています。この取組により、森林に人の手が入るようになったほか、モリ券の発行による地域経済の循環にもつながっています。また、先進的な取組として全国から高い評価を受けており、平成26年度は、15団体(136人)の視察を受け入れました。

わくわく事業交付実績				
項目	H23	H24	H25	H26
交付件数	14団体	9団体	12団体	10団体
内 新規	3団体	2団体	5団体	3団体
継続	11団体	7団体	7団体	7団体
交付総額	5,000千円	4,104千円	4,930千円	4,717千円
				4,245千円

木の駅PJ実績			
項目	H24	H25	H26
出材量	350トン	316トン	359トン
モリ券発行枚	1,913枚	1,861.5枚	3,908枚
出荷者	53人	58人	58人
登録商店	34店	35店	35店

目標分野	地域予算提案事業 事業数				
	H23	H24	H25	H26	H27
① 道路交通	1		1	1	1
① 定住生活	1	1	2	2	2
② 健康福祉				1	1
③ 産業観光	1	2	2	2	2
③ 農地森林		1	1	1	1
合計	3	4	6	7	7
実績額 (H27予算額)	17,842千円	6,066千円	11,974千円	14,237千円	18,821千円

## 3 5か年の取り組みの成果（現状分析）

### (1) 取組項目（施策）の検証結果

各種取組の実績や地域の状況、関係者へのヒアリング結果などに基づき、地域会議が各種取組の効果を検証し4段階で評価した結果、16項目のうち10項目が「確実に効果が出ている」または「出始めている」と分析し、**全般的に取組の効果が「概ね出ている」という結論に至りました。**

目標（分野）		取組項目数	評価・取組数		主な取組項目（状況分析）				
1	道路・交通 定住・生活	4	○	3	バスの利便性向上 のろまい協議会等で運行見直しが随時進められている。 定住促進と住居の確保 空き家バンク等により移住実績が伸びている。				
			×	1	生活環境の整備 地元商店への対策が遅れており、更なる悪化が懸念される。				
2	防災・防犯 健康・福祉 学習環境 地域力	8	○	5	住民相互（結い）と連帯感の強化 地域活動を通じて連帯感が生まれ課題に挑める体制ができつつある。				
			△	2	子育て環境の充実 学童保育など充実した面もあるが地域で支え合う仕組みが必要である。				
			×	1	福祉の向上 実感として感じられず、より力を入れて対策を練る必要がある。				
3	産業・観光 農地・森林	4	◎	1	森林再生と森林資源の活用 「旭木の駅PJ」を始め、森林分野での取組は実績をあげている。				
			○	1	観光拠点の整備と情報発信 日帰り客が多く宿泊を伴うイベント化の検討や周遊化の仕組づくりが必要				
			△	2	地域資源を活用した産業の育成 特產品のインパクトが弱い。自然薯を特産品としてPRしているが、手軽に食事をする場がない。				

※4段階評価／◎確実に効果が出ている、○効果が出始めている、△効果が薄い、×効果が出ていない

## (2) 現在の旭の姿の検証結果（目標とする10年後の姿との比較）

平成26年度に100人を対象としたアンケートを実施した結果、計画策定前と比べて変化を実感している人の割合が増えている状況が伺えました。

こうした結果を踏まえて、地域会議が現在の旭の姿を検証した結果、目標とする3つの将来像に「近づきつつある」または「一部は近づきつつある」状態であると分析し、計画推進の効果が着実に出ているという結論に至りました。



▲ふるさとの川辺のひととき

### 現在の旭の姿の検証結果

#### 目標将来像1 若者が住み続けられる魅力あるまち 旭

状態	目標の姿に『一部は近づきつつある(→)』
①若者が旭に住み、より住みやすくするための様々な事にチャレンジができるまち	→
②豊田市街や名古屋市への通勤・通学が可能であるほか支所周辺等へも容易に行き来できる交通環境にあるまち	↗
③暮らしに必要な物やサービスが揃う商店や公共施設(機能)が充実しているまち	↘

##### 《状態分析》

①人口は増加していないが、空き家バンク等の実績が伸びているほか、若者会を始め活躍する若い人達の姿が見られるようになった。

- ②数年前と比較して高校生や高齢者が基幹バスや地域バスを利用する姿も多く見られるようになった。
- ③72.3%の住民が地域内の商店を利用する人が増えていないと実感している。また、廃業による業種の減少が今後、懸念される。

##### 【住民意識（アンケート結果）】



#### 目標将来像2 地域が助け合い安心して暮らせるまち 旭

状態	目標の姿に『近づきつつある(↗)』
①地域住民同士が、世代間を越えて支え合えるまち	→
②積極的に地域活動が行われているまち	↗
③地域の目が行き届き、地域に支えられている安心感から不安なく暮らすことができるまち	→

##### 《状態分析》

①子どもにも役割を与えた地域行事を開催している姿が見られるようになった。

- ②声掛けに応じて活動に参加する人が着実に増えているほか、わくわく事業を始め新たな取組も生まれつつあり、自主的な地域活動が進められている状況が見られる。
- ③常会後や広報配付時の声掛けなど、普段の生活の自然な取組がされている様子が見られるようになった。一方で子どもや独居老人が自然と集まる場所が少なく地域の目から遠のいている。

##### 【住民意識（アンケート結果）】



#### 目標将来像3 誰もが訪れたくなる美しい山里 旭

状態	目標の姿に『近づきつつある(↗)』
①森林や農地に人の手がしっかりと入ったまち	→
②農林業にかかわりを持つ暮らしに豊かさを実感できるまち	↗
③地域住民とのふれあい、誰もが何度も訪れたいと感じるまち	↗

##### 《状態分析》

①50%の住民が農地の活用や山林の整備が進んだと実感しており、実際には、木の駅PJや森づくりの団地化が進んでいる。

- ②旭木の駅PJの活動が活発で多方面からの注目を集めている。また、参加している人の「自分が楽しめる活動」が地域貢献につながっている。
- ③旭地区に観光で訪れる人が増えたと思う人が過半数(67%)を超えており、実際に観光入込客数の推移を見ても年々増加傾向が確認できる。

##### 【住民意識（アンケート結果）】



※状態評価／↑ほぼ近づいている、↗近づきつつある、→ 一部は近づきつつある、↘全く近づいていない

### (3) 住民の暮らしの満足意識の変化

H26 年に実施したアンケート(第 20 回市民意識調査)結果のうち「住みよさ意識」では、「どちらともいえない」と答えた人の割合が若干多いものの、約 62% の人が「住み良い・どちらかといえば住み良い」と答えております。

この結果は、平成 22 年に実施した「アンケート結果『住みよさ意識』(旭地区のまちづくりを考える)」と比較すると、この 5 年間で満足意識が 15.1 ポイント上昇しました。

回答内容	アンケート種別 H22 年実施 【住み良さ意識】	アンケート種別 H26 年実施 【住みよさ意識】	5 年間の 変化
住み良い	18.4%	28.4%	+15.1
どちらかといえば住み良い	28.2%	33.3%	
どちらともいえない	32.9%	25.5%	-7.4
どちらかといえば住みにくい	13.0%	6.9%	-10.0
住みにくい	5.9%	2.0%	
無回答	2.5%	3.9%	+1.4

## 4 今後の課題

### ◎人口減少による担い手不足

各種定住施策の一定の効果は出始めているものの、人口減少や高齢化の進行による担い手不足により、様々な地域活動に影響が出始めています。人口を増やすことは、全ての取り組みの根幹に当たる課題であり、若者世代の増加につながる更なる対策強化が必要です。



▲あさひ若者会（同窓会イベント）

### ◎地域核機能の確保

生活に必要な業種が揃っている小渡商店街では、通院帰りの高齢者の姿なども見受けられ、地域核としての機能が備わっております。しかし、後継者のいない商店の廃業による業種の減少が懸念されるなど、地域ぐるみで地元商店を活性化させる対策が必要です。



### ◎既存の取組や地域資源の磨き上げ

子育て環境や福祉の向上などの取組は、有効な事業や制度があるものの、広く知られていない、活用がされていないなどで、十分な効果が現れていないものや、様々な要因で進んでいない取組もあります。一方で、各種専門分野で活動する地域の自主グループが生まれておりますが、広く認知されていない状況も伺えます。今後は、新たな取組を生み出すよりも「互いに連携し合う」「補完し合う」関係性の中で、今あるものを見直し、磨き上げによるまちづくりが必要です。

### ◎地域の支え合い活動の低下（共助機能の限界化）

防災・防犯活動や独居高齢者・子どもたちの日常的な見守りなどの支え合い活動は、人口減少や高齢化の進行により従来どおりにできなくなりつつあります。加えて、昼間の現役世代の不在により手薄となる時間帯も生まれております。今後は、従前の支え合い活動の枠組みに捉われることなく、地元事業者や団体の協力も得ながら、『ご近所同士から集落住民全体へ』『集落から自治区全体へ』広げるなど、持続的な共助機能の保持が必要です。



## 5 まとめ

前期 5 か年の取組を進めた結果、個別の課題や問題点はあるものの総体的には、目指す目標の姿に近づいている状況が伺えます。また、地域住民の住みよさ満足度も 15.1 ポイント上昇しているほか、地元への愛着意識についても全市と比較して 72.5% と高く、住民意識にも変化が現れているなど、旭地区のまちづくりは、着実に前進しております。

現在、旭地区のまちづくりは、旭地区まちづくり計画(5か年計画・集落ビジョン)を「道しるべ」としながら、大小様々な地域課題を的確に捉え、地域と行政の役割分担と連携の基で効果的に取り組まれている点や、地域住民の斬新かつ地道な活動が注目を浴び、市内外から高く評価されるようになりました。

その結果、報道機関等で旭地区を取り上げる機会が増えたことで、住民の愛着意識や旭への定住意識の増加、更には、大学、企業、団体など外部の活動団体が旭を選び、旭で活動するようになっているなど、好循環にもつながっていると考えられます。

一方で、人口減少や高齢化の進行により、地域力の限界化の兆しも見え始めております。今後に向けては、新たな取組を生み出すことに傾注するのではなく、今ある資源(人や物、知識、取組など)を磨き上げ、生かし合える工夫を凝らしながら、少ない人材でも効果的に実践ができ、最大限の効果が得られるような取り組みを推進し、更なる好循環を生み出し、地域住民の誰もが自慢でき誇れる旭を築く必要があります。

## 計画策定の主な経緯

◇第1期5か年計画〔2011～2015〕総括作業 (全体調整及びグループワーク) 計9回開催	平成26年7月～ 平成27年7月
◇まちづくりアンケートの実施(対象者100人)	平成26年10月
◇第2期5か年計画〔2016～2020〕策定作業 (全体調整及びグループワーク) 計7回開催	平成27年7月～ 平成28年2月
◇持続可能なまちづくり協議会 計3回開催	平成27年7月～ 平成28年1月
◇旭地区まちづくり懇談会(市長と語るまちづくり懇談会)の開催 第1期5か年計画〔2011～2015〕総括結果の発表	平成27年8月
◇第2期5か年計画〔2016～2020〕計画素案の公表 意見募集(パブリックコメント)の実施 意見数 5件	平成27年12月
◇第2期5か年計画〔2016～2020〕策定・発表 平成27年度旭地区まちづくり実践発表会開催	平成28年3月

## 計画策定委員

■旭地域会議委員 ◎会長 ○副会長 ◇部門リーダー

【敬称略】

◎堀 俊和	○戸田 友介	浅井 三津王	市村 和昭
大内 辰雄	大山 純治	木浦 幸加	後藤 啓一
佐野 弘明	鈴木 久治	鈴木 啓佑	鈴木 穎一
鈴木 直樹	◇原田 喜隆	古田 彰博	榎本 和之
松井 栄一	松井美佐枝	◇三宅 貞夫	◇築井 喜仁

■持続可能なまちづくり協議会委員(旭地域会議専門部会) ◎会長 ○副会長 (所属団体名等) 【敬称略】

◎堀 俊和(旭地域会議 会長)	富永 英明(消防団第9方面隊 方面隊長)
○戸田 友介(旭地域会議 副会長)	後藤 善弘(民生児童委員協議会 会長)
原田 喜隆(旭地域会議 部門リーダー)	永井 晴彦(社会福祉協議会旭支所 支所長)
三宅 貞夫(旭地域会議 部門リーダー)	安藤 福平(旭G Sボランティア 会長)
築井 喜仁(旭地域会議 部門リーダー)	松井 君枝(ヘルスサポートリーダー 庶務)
井口 謙治(浅野自治区 自治区長)	山岡 恵(たんぽぽ 代表)
松嶋 利光(築羽自治区 自治区長)	近藤 久美(旭観光協会 事務局長)
宇井 清司(旭地区定住連絡会 会長)	加藤 武男(株式会社旭高原元気村 社長)
松嶋 晋吾(あさひ若者会 メンバー代表)	高山 治朗(旭木の駅プロジェクト実行委員会 委員長)
松井 恒雄(旭商工会 事務局長)	安藤 征夫(あさひ薪づくり研究会代表)
鈴木 辰吉(しきしまときめきプラン策定委員会 委員長)	三嶋 秀樹(小渡の夢をかなえる会 副会長)
三宅美代子(旭交流館 館長)	



## 旭地区まちづくり計画 第2期5か年計画 [2016~2020]

【平成28年3月発行】

計画策定：旭地域会議 素案協議：持続可能なまちづくり協議会 編集：豊田市役所旭支所

〒444-2892 愛知県豊田市小渡町船戸 15-1 TEL0565-68-2211 FAX0565-68-3476

Eメール：[asahi-shisho@city.toyota.aichi.jp](mailto:asahi-shisho@city.toyota.aichi.jp)

